

環境にやさしい ものづくり
Design for Environment

200年近くも樹皮の再生を繰りかえし 大量のCO2を吸収するコルク樫製品を暮らしに活かす

地中海沿岸に成育するコルク樫。その森は、南欧の砂漠化を防ぎ、イベリア山猫など希少種を含む動植物の生態系を支えています。

樹齢約20年で皮をはぐことができるようになるコルク樫は、150年から200年の間、9年周期で樹皮の再生を繰り返します。皮をはがれたコルク樹は、通常の3〜5倍のCO2を吸収するので、主産地であるポルトガルの森だけで年に480万トン、地中海全体では1,400万トンのCO2を吸収するといいます。

樹皮から作られたコルクで、まずコルク栓が作られます。残りは粉砕してコルク粒とし、接着剤と混合してコルクシートとなり、防音や断熱、弾力性を活かした製品となります。

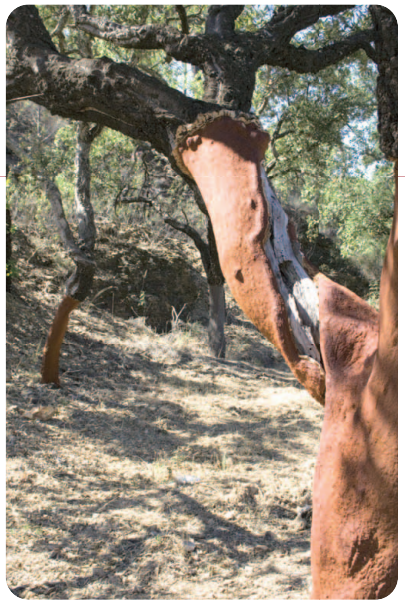
エコロジカルで長所の多いコルクを暮らしに取り入れるプロジェクト「CORK＋（コルクプラス）」を展開する永柳工業株式会社（本社：東京都墨田区）は、お菓子のマカロンのようにカラフルな円形座布団「コルクマカロン」を開発しました。2枚のコルクシートにスポンジをはさむことでクッション性を備えた座布団は、軽く、滑りにくいので積み重ねて使用できます。夏はさらりと、冬は温かい天然素材の肌触りが、“身近な自然”を感じさせます。

コルク樫の旺盛な生命力が、暮らしに潤いを与え、地球温暖化にも大きく貢献しています。





肌触り良く、風合いも自然な「コルクマカロン」



コルク樫の樹皮は9年で再生する

